

村上市のまちづくり ~市長と語ろう2016~

市長とのふれあいトークを開催

8月21日(日)から10月2日(日)にかけて、各地区で昼夜1回ずつ合計10回の「市長とのふれあいトーク」を開催しました。「村上市のまちづくり」と題して高橋市長が、今年度の事業状況や今後のまちづくりについて語ったあと、参加者と意見交換を行いました。意見交換会には、合計245人の市民の皆さんにご参加をいただき、市政に関するご質問やご意見を頂戴しました。

今月号では、意見交換の内容を一部抜粋して紹介します。

観光

問 村上の食材で作った駅弁を、SLが村上駅に到着するまでの車内で食べてもらうのはどうか。車窓から田園風景も見えるので絶好のPRの機会となると思うが。

答 今回の駅弁「むらかみの幸まるごと弁当」は、主に首都圏をターゲットとして、村上市の魅力を味わっていただき、交流人口の拡大をねらった取り組みです。羽越本線沿線でのPRについては、きらきらうえつ運行時の各駅でのお出迎いの機会とあわせて考えていきたいと思えます。

問 城下町村上とはいえず、どこにお城があるか分からない。木を切り、石垣が見渡せるようにしてはどうか。堀、土塁が分かるようにして、興味を引くような整備を進めてはどうか。

答 国指定史跡であるため、木の伐採についても制約がありますが、可能な範囲で進めていきたいと思えます。歴史的風致維持向上計画でも重点区域に入っているエリアな

で、城跡の周辺整備を進めていく意向が。

産業

問 伝統的工芸品として、村上木彫り堆朱と羽越しな布があるが、後継者が減少している。支援をしてほしい。

答 携わる人がしっかりと生活できるしくみを作り上げることが伝統の継承に繋がると思えます。市としても積極的に支援していきたいと考えています。

問 洋上風力発電について、11月に事業性評価が出るとのことだが、事業のことを知らない人も多いのではないか。

答 11月に事業性評価を行い、事業者が実施の判断をすれば、環境アセスメントなど、事業者が調査を実施することになります。事業の周知については、これまででも多くの情報を提供していましたが、伝え方を工夫していきたいと思えます。

教育

問 学校統合の検討会が開催されているが、なかなか話し合いが進んでいかないと感じている。市長はどのように考えているか。

答 子どもたちにとって何が一番幸せかを優先して考え、ある程度の規模のもと教育環境を整えていきたいと思えます。皆さんと一緒に、子どもたちをどのようにしてこの地域で育てていけばいいかを考えていきたいと思えます。



市長が語った

「村上市のまちづくり」

「まちづくり」 LIFESTYLE (抜粋)

思いやりのまちづくり

- ◇人工透析治療通院費助成
- ◇山辺里保育園保育室の増築（未満児受入れの拡充）
- ◇第3子以降保育料・幼稚園入園料無料化
- ◇病児保育施設建設(県立坂町病院敷地内設置)



にぎわいのまちづくり

- ◇村上牛認定向上対策事業
- ◇伝統産業の拡大と後継者育成（木彫り堆朱、しな布）
- ◇産業の活性化とにぎわい創出（産業支援プログラム）
- ◇住宅リフォーム事業（昨年度からの予算を倍増）
- ◇ふるさと村上応援寄附金（1億円を目標）

住みよくなるまちづくり

- ◇防犯灯LED化の推進

◇日本海沿岸東北自動車道朝日まほろばICアクセス道路用地測量など

◇歴史的風致維持向上計画（県内初認定）

◇消防団広報指導分団設置

ふれあいのまちづくり

- ◇小中学校の再編成
- ◇学力向上支援（教育補助員などの配置・英語検定料助成）
- ◇東京オリンピック・パラリンピックジュニア育成（日本海スケートパーク整備）

効率の良い行政経営

- ◇第2次村上市総合計画（平成29年度）
- ◇定住自立圏共生ビジョン（関川村・粟島浦村と連携）

市民と行政の協働

- ◇地域おこし協力隊 4人（2地区で各1人増員）

地方創生

- ◇総合戦略・人口ビジョン

※当日の資料は、市ホームページに公表しています

スポーツ

問 オリンピック・パラリンピックを目指すアスリートの育成とは、具体的にどのようなことか。

答 オリンピック・パラリンピックを目指す能力のある人を支援していく必要があるが、現在一番可能性が高いのが、東京オリンピックの正式種目となったスケートボード選手の育成です。日本海スケートパークのリニューアルを平成31年春に予定しており、アスリートのトレーニング施設として有効に活用できると思っています。

まちづくり

問 村上病院の跡地利用はどのような予定なのか。

答 村上駅周辺まちづくり構想を公開し、その中で考えを示しています。まず、スムーズな病院の移転を完了させることが大切で、その後、駅周辺のまちづくりに取り組む予定です。

人口減少

問 市では、人口を増やしたり、人を呼び込むためにどんなことに取り組んでいるのか。

答 そのためには、雇用の拡大が必要だと思うので、思い切った企業振興策を検討してほしい。

問 人口減少対策には、働く場の確保や保育サービスの充実など、一つひとつの取り組みを地道に積み上げていくことが重要であると考えています。市内産業の活性化を図るため、販路拡大や創業に対し、今年度新たに産業支援プログラム補助金を創設しました。当初の想定を上回る申請があり、補正予算を編成し対応したところです。

医療・福祉

問 病児・病後児保育が県立坂町病院でも始まるということで大変喜んでいますが、さらなる坂町病院の機能の充実・活性化を考えてほしい。

答 毎年、活性化協議会で県や病院局に要請を行っている



が、県内の医師数が絶対的に少なく、医師数を底上げしない限り、問題は解決しないという現状があります。今後、市としても独自の奨学金制度を設け、医師を育てる仕組みに取り組みしていきたいと考えています。

防災

問 消防団の広報指導分団の設置、広報予防活動の女性参加の促進とあるが、具体的にはどういったものか。

答 防災意識を高めるための救急救命の講習や災害時の避難所の設営、日常の広報活動などを行ってもらう女性消防団員の募集です。

●問い合わせ

政策推進課企画政策室
☎53・2111（内線5303）